



DAIDO CAMPUS

No.84 2015.4



写真提供：アルバム委員会

学生の
勇姿!



平成27年度入学式を挙行了しました

4月1日(水)、本学石井記念体育館で入学式を挙行、学部生847人、大学院生31人が大同大学の門をくぐりました。

式では、澤岡昭学長が、「自分にとって何が好きなのか、何をやりたいのか、本当に何が得意なのかを見つけてください。これが分かり、得意なことを中心にした生活を始めると毎日が楽しくなり、自信がついてくるものです。これからの

学生生活を勉強、研究、スポーツ、サークル活動、友人との交流を通じて、元気で愉快な思い出に残る学生生活をつくりだすことを心より願っています」とエールを送りました。

また、新入学生代表として、渡辺裕太さん(工学部 建築学科 土木・環境専攻)が「私たちは、大同大学の学生であることに誇りを持つと共に、ここで学ぶすべてのことをこれからの時代を支

える大きな力とすべく努力することを誓います」と力強く宣誓しました。

式後は、「WELCOME TO DU」イベントを在学生たちが開き、クラブ紹介やミニゲーム、ビンゴ大会などを行いました。また、新入生父母懇談会も実施しました。



写真提供：アルバム委員会

林秀行さん(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻 4年)

第9回レーザーコンテストで準グランプリを受賞しました!



12月6日(土)、拓殖大学八王子キャンパス紅葉館でFDA(ファブデザインアソシエーション)主催、第9回レーザーコンテストの最終プレゼンテーション・表彰式が開催され、林秀行さんが準グランプリ(規定部

門)を受賞しました。

レーザーコンテストは、レーザー加工機というパーソナルファブリケーションツールを活用して、応募者が描いたイメージや思いをテーマに応じて具象化した作品のコンテストです。自由部門と「動き」を表現した作品を募集した規定部門の2つの部門で募集が行われました。

林さんは一次審査を通過し、最終プレゼンテーションへ参加。制作した作品とパワーポイントを用いてコンセプトやレーザーをどのように活

用したのかなど、作品への想いを発表しました。

林さんの作品「波動歯車装置による一輪車」は、波動歯車装置を理解してもらうための教材として提案。構造をスケルトン化することにより、動きを視覚的に見ることができるところをアピールし、準グランプリという嬉しい結果となりました。

コンテストの様子・受賞作品はこちらから：
<http://blog.ldf.jp/>

パテントコンテストで特許出願支援対象者に選出されました!

高校生や高等専門学校生、大学生に一人ひとりのアイデアで社会や暮らしをより良くし、未来を切り拓く体験の機会を提供するとともに、知的財産マインドを育て、知的財産権制度の理解を促進することを目的に毎年開催されている「平

成 26 年度パテントコンテスト」(文部科学省、特許庁、日本弁理士会、独立行政法人工業所有権情報・研修館主催)で、林秀行さんが発明した「スライダーハーモニックドライブ」が特許出願支援対象発明に選出されました。

1月26日(月)には、イイノホール&カンファレンスセンター(東京都千代田区)で表彰式も行われました。今回は494件の応募があり、29件が出願支援対象発明に選ばれました。

田中智也さん(大学院 情報学研究科 修士課程 情報学専攻 情報システムコース 2年)

第157回教育工学研究会で学生優秀発表賞を受賞!

3月16日(月)、計測自動制御学会(SICE)中部支部主催、第157回教育工学研究会が本学滝春キャンパスで開催され、田中智也さんが学生優秀発表賞を受賞しました。

今回の研究会のテーマは、「教育工学(新し

い教育システム、マルチメディアと教育)」。研究会では、近隣の高等専門学校や大学から11名の学生が参加し、その中での受賞となりました。

田中さんは、「LEGO Mindstorms EV3

を用いた二輪型倒立ロボットに関する考察」と題して、LEGO Mindstorms EV3の周辺機器の仕様が不確定な中で、新たな二輪型ロボットの構造を提案し、その倒立制御を実現させることに成功した事例を発表しました。

岩田杏里紗さん(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 2014年度卒業生)

デザイン女子 No.1 決定戦で特別賞を受賞しました!



第4回デザイン女子No.1決定戦が3月9日(月)・10日(火)にサーウィンストンホテルのメゾン・ド・オペラで開催されました。全国の大学・短大・高専・専門学校に在籍する女子学生の立体系デザイン分野の卒業設計・制作・研究No.1を決めるこのコンペティションに今回は100人を超えるエントリーがありました。

岩田さんは恵那市明智町にある障がい福祉サービス事業所との連携プロジェクトでエント

リー。この連携プロジェクトは卒業研究として同じ横井健二研究室の小粥敬祐さんと一緒に取り組んだもので、事業所で製作されていた牛乳パック再利用手すきはがきに身近なボタンや糸、葉っぱなどを貼り付けるという独自発想の「版画」や水面に浮かぶ絵の具の模様を写し取る「マーブリング」技法を用いたアート制作の提案。またロゴマーク・タイプを考案するなど、ここでしか生み出せないものを追究しブランド化、さらには製作現場の活性化をも目指した取り組みを発表しました。

結果、ファイナリスト8人に選ばれ、最終的にはNo.3以内の入賞は逃しましたが、取り組みの優秀さが認められ「特別賞」の4人に選ばれました。また今回から新たに部門賞審査が2日目に行われ、インテリア・プロダクト部門で3位に選ばれました。

実際に商品として販売されていることや、福祉という分野に飛び込んだ行動力、ブランディング面から取り組んでいる点、また今後への期待などから審査員の好評を得ることができました。

なお、本学情報学部情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻の岡田心准教授は1次審査の審査員を務めました。





学生の
勇姿!

仲村準也さん(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻 2014 年度卒業生) 日本図学会中部支部冬季例会で奨励賞を受賞しました



2月19日(木)、本学で日本図学会中部支部冬季例会が開催され、仲村準也さんが発表した論文「伝統工芸有松・鳴海絞りロボットの外装デザイン」が

奨励賞を受賞しました。

この仲村さんの研究は、本学の共同研究ラボラトリーとして行われており、西堀賢司元教授(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)との共同研究。誰からも愛されるキャラクターロボットとして外装のデザインを担当しました。

かたつむりをイメージしていることから、ロボットの名前は「しぼつむり」。これまでも、西堀元教授が開発した絞りロボットは多くのメディアに取り上げられてきましたが、今後も愛されるロボットとして取り上げられるように、そしてさ

まざまなイベントでも皆様を魅了できればと思っています。この研究は今年度も継続しますが、今度はどんなロボットがお目見えするか楽しみにしててください。



中山哲寛さん・横井大輔さん(工学部 建築学科 インテリアデザイン専攻 4 年) 第12回 主張する「みせ」学生デザインコンペで奨励部門賞を受賞しました

公益社団法人商業施設技術団体連合会主催、まちづくり、みせづくりである商業施設づくりに対する技術の向上と意識の高揚に寄与したコンペである第12回 主張する「みせ」学生デザインコンペで、中山哲寛さんと横井大輔さんが奨励部門賞を受賞しました。

加藤和雄教授、近藤博史非常勤講師が担当

する授業「インテリアデザイン設計4」の中で作品を制作。中山さん、横井さんは「-流れ×商業空間×人- 流れるみせ、流れるひと。」を制作し、受賞しました。「みせがやってくる」をコンセプトに、時代の流れに乗り遅れることなく、時代とともに流れていく新しい「みせ」を提案しました。



磯崎文音さん(大学院 情報学研究科 修士課程 情報学専攻 かおりデザインコース 2 年) 第38回人間-生活環境系シンポジウムで発表賞を受賞!

昨年12月6日(土)/7日(日)、長崎県立大学シーボルト校で第38回人間-生活環境系シンポジウムが開催され、磯崎文音さんが発表賞を受賞しました。

人間-生活環境系学会は、人間と生活環境に関連する広い分野の知識や技術を有機的に結合し、人間-生活環境系として体系化を

図り、健康で快適に活動できる生活環境の実現に努め、人々の生活の質の向上に貢献することを目的として設立されており、毎年シンポジウムが開かれています。

磯崎さんは、「におい物質濃度が臭気質に及ぼす影響に関する検討」と題して、室内環境で対策が必要とされる複合臭の単一物質であ

る硫化メチルとスカトールに対し、臭気の濃度と臭気質の変化の関係について比較・検討を行った結果について発表。35歳以下の特に優秀と認められる研究発表を行った者に与えられる発表賞を見事受賞しました。

磯崎さん喜びのコメント



今回第38回人間-生活環境系シンポジウムにおきまして、口頭発表賞という名誉な賞をいただくことができ、大変嬉しく思います。

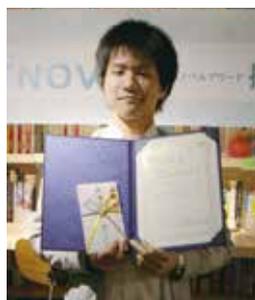
今回発表致しましたにおい物質濃度の差における臭気質の変化に関する研究は学部4年次から進めているものです。既往の研究もまだ少ないことから、実験方法の検討をはじめ、条件設定、とくに試料の濃度調整が非常に大変でしたが、光田先生をはじめ、多くの先生方からのご指導と被検者の方々のご協力により、実験を進めることが

できました。ありがとうございました。

今後は個人間での臭気質の変化について考察を深めると共に、検討する物質数を増やし、物質間での比較を行っていき、室内環境での悪臭対策へと繋げていきたいと考えております。

鍋倉康佑さん(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻 2014 年度卒業生)

CUT NOVEL AWARDS で最優秀賞を受賞!



CUT NOVEL AWARDS で、鍋倉康佑さん(杉本

小説を紹介するための1分間の予告編映像であるカットノベル。没後51年を経過し、著作権が消滅した小説を基本にカットノベル作品を募集した

幸雄研究室)が、最優秀賞を受賞しました。

鍋倉さんは、文字の霊の正体に迫る、取り憑かれた人々の姿を描いた小説「文字禍」(中島敦著)のカットノベルを制作しました。このコンペは日本国内はもとより、EU諸国、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどが募集対象となっており、その中で最優秀賞という大変喜ばしい結果となりました。

CUT NOVEL ホームページ：<http://www.cutnovel.com/>
鍋倉さんの作品：<http://cutnovel.com/movie/145>



男女ハンドボール部

第12回レッツジュニアスポーツ体験交流イベントに今年もスタッフとして協力・参加した模様が東海テレビで放送されました

1月25日(日)6:30～、東海テレビで齊藤慎太郎教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻/女子ハンドボール部監督)と佐藤壮一郎准教授(同専攻/男子ハンドボール部監督)とハンドボール部員がスタッフとして協力・参加した第12回レッツジュニアスポーツ体験交流イベントの様子が「はじめよう!親子で楽しくコーディネーショントレーニング～minimini スペシャル～」と題して放映されました。

このイベントは外で遊ぶ機会が少なくなっている子どもたちにスポーツを体験してもらい、身体を動かすことの大切さ、スポーツの楽しさを知ってもらうことを目的に毎年開催されています。

子どもたちは4種類のスポーツ(野球/サッカー/ソフトテニス/ハンドボール)を体験しながら、コーディネーショントレーニング(脳を鍛え、動きを

良くするためのトレーニング)に取り組みました。

本学はハンドボールを担当。ハンドボールを知っている子どもたちはなかなかいないため、学生たちがお手本を披露。デモンストレーションで学生たちがシュートを打つと「すごい!」などの声が聞こえてきたり、拍手をしてくれる子どもたち

に、学生たちも楽しくハンドボールをすることができ、元気をもらったとのこと。学生たちは、子どもたちがスポーツや体を動かすことの楽しさを少しでも感じてもらえたらと話し、イベントを通して子どもたちにハンドボールの楽しさ、魅力を伝えることができたようです。



大同フェニックスカップのボランティアを行いました

2月21日(土)・22日(日)、東海市体育館でフェニックスカップが開催され、ハンドボール部の学生がお手伝いとして参加しました。

この大会は、全国からたくさんの小学生ハンドボールチームが集まって行われる大会です。学生たちは主に参加チームの帯同を行いました。小学6年生の児童にとっては最後の大会でもあり、試合で必死にボールに食らいつく姿や、シュートを決めてみんなで喜ぶ姿を近くで見て、学生たちにとっても良い刺激となったようです。学生たちは、来年も全力でサポートし、

素晴らしい大会になるようにしていくと決意を話してくれました。



工学部 建築学科 土木・環境専攻1年生

ESDユネスコ世界会議サイドイベントに参加し、意見発表しました

11月10日(月)～11月12日(水)に名古屋国際会議場で開催された「ESDユネスコ世界会議 あいち・なごや」。この国際会議と並行して行われたサイドイベントの一つに、本学の工学部建築学科 土木・環境専攻1年生の約40人が参加しました。

学生たちが参加したのは、12日(水)に開催されたESDセミナー「地域コミュニティによるESD主流化を実現するための大円卓会議」(主催:なごや環境大学実行委員会)。本学の非常勤講師である長谷川明子先生もファシリテータとして運営に関わっています。

テーマは、地域コミュニティに学生・若者、地域の団体、こどもNPO、地域企業、なごや環境大学などがそれぞれにどう関わり行動するか。5人によるパネルディスカッションが行われたあと、「二

重円卓方式」で各パネリストと参加者が議論を行いました。専門の業界である地域の建設会社の方がパネリストとして参加しておられ、そのユニークで熱い取り組みに、学生たちは熱心に耳を傾けていました。最初は慣れない議論に学生も発言することを戸惑っていましたが、パネリストやファシリテータからの問いかけに答えるかたちで多くの学生が意見を述べました。その後、各グ

ループでの議論の発表があり、本学の学生も代表して意見を発表しました。最後に発言を求められた場面では、「学生のみんなも地域にどんどん出ていきましょう!」と呼びかけるまでになっていました。

学生たちにとって、世界的なイベントの下、身近なところで持続可能な社会を考える良い機会となったようです。



高木基充研究室・渡部裕子研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

第23回SAVE MEポスター展に出展しました

10月8日(水)～10月13日(月)、国際デザインセンター・デザインギャラリーでグラフィックデザインを学ぶ中部の大学・専門学校生たちのポスター展「第23回SAVE MEポスター展」が開催され、情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻の高木基充研究室の学生 5人と渡部裕子研究室の学生 5人が作品を出展しました。

このポスター展では、「絶滅寸前の動物たちを守りたい」をテーマに、学生たちがB1サイズのポスターを制作しました。



高木基充研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

第5回ポスターグランプリコンペティションで入賞しました!

愛知県印刷工業組合、岐阜県印刷工業組合、三重県印刷工業組合らが主催する第5回ポスターグランプリコンペティションで、高木基充研究室の学生が入賞・入選しました!

工藤優作さん(メディアデザイン専攻 2014年度卒業生)が東洋インク株式会社賞を受賞し授賞式に参加したほか、萩野夏紀さん・後藤未来さん・加藤貢啓さん・山本彩可さん・小崎瑞貴さん(同 2014年度卒業生)の5名が入選しました。

テーマは、<伝える>～伝えよう、あなたの想

い。～、人や社会、自然や未来のこと、今あなたの想いをメッセージしようという主旨のもと、豊かな発想と斬新な表現のポスターが募集されました。

入賞・入選作品は、11月5日(水)～11月9日(日)に愛知県美術館ギャラリーで展示されました。



高木基充研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

第30回南区区民まつり

ふれあいステージのモザイクアートを制作しました!

11月9日(日)、日本ガイシスポーツプラザで開催された第30回南区区民まつりで、特設ふれあいステージのモザイクアートを高木基充研究室が制作しました。

南区にある本学のグラフィックデザインを専門

としている高木研究室に南区から依頼があり、地域貢献の一環として受け、実現。南区民およそ2000人の笑顔写真を集め制作した、横幅9m×縦2.5mの大モザイクアートがステージ設置されました。

イベント後は、区民のみなさんが自分たちの笑顔の写真がどこに使われたのかを楽しめるように南区役所に展示されました。



杉本幸雄研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

制作したラジオドラマがFM Aichiで放送されました

3月1日(日)19:00~19:30、FM Aichi 80.7MHzで、杉本幸雄研究室が制作したラジオドラマ「なぜ、あの人の周りに人が集まるのか?」が放送されました。

このラジオドラマは、志賀内泰弘さん原作の作品で、鍋倉康佑さん(メディアデザイン専攻

2014年度卒業生)が監督を務めました。

タイトルは、「～潰れかけのコンビニを救ったのはバイトのおばちゃん!?～」。毎日仕事が遅く、クビにされようとしていたバイトのおばちゃんの行動によって巻き起こるほっこりコメディラジオドラマが放送されました。



工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻

瀬戸蔵ロボット博2015にロボットを出展しました



未来EXPO」の一環として、瀬戸蔵(愛知県瀬戸市)で瀬戸蔵ロボット博2015が開催され、本学ロボティクス専攻の西堀賢司名誉教授が開発した松・鳴海絞りロボットや空中ブランコロボットを出展したほか、ロボット研究部が約16体の小型2足歩行ロボットによる格闘技トーナメント「ロボコロ2015 in 瀬戸蔵」を行いました。

3月21日(土)~3月29日(日)、愛・地球博、瀬戸蔵、バルティせとの10周年記念事業「せと・まるっと

今回の展示にあわせて改装した空中ブランコロボットや、ロボット研究部による2足歩行ロ

ボットの操縦体験に、多くの方に関心をもっていただきました。特に操縦体験では、ロボットのモータが過熱して休憩を取らないといけないほど繁盛しました。土日の4日間は親子連れで賑わい、本学情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻横山弥生研究室とのコラボ「しばつむり」(カツムリ版)は特に子供たちに人気でした。開催期間中はのべ24名の学生が常駐し、来場者に簡単な体験してもらったり、白熱したロボットバトルを披露しました。

高木基充研究室・渡部裕子研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) ポスター展「LOVE HANA AICHI」に出展しました

公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会愛知が主催するポスター&ポストカード展「LOVE HANA AICHI」が10月21日(火)～10月26日(日)、名古屋市東区のセントラル・アートギャラリーで開催され、情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻の高木基充教授と、高木研究室の学生12人、渡部裕子研究室の学生8人が参加、作品を出展しました。

この作品展は、日本グラフィックデザイナー協会<JAGDA>の愛知地区会員と県内デザイン教育機関の学生が、愛知の花をテーマに「見る・飾る・贈る」花のもたらす幸せや魅力をグラフィックの力で伝えるポスター&ポストカード展です。愛知県が花の生産量日本一ということから、このようなテーマになりました。

また11月2日(日)には、作品を出展した県内各大学・専門学校15校・200名強の学生が集

まり、愛知学院大学 名城公園キャンパスでサンデースクールも開催されました。愛知の花き産業についてのレクチャー、デザイナーによるリレートーク、学生作品の表彰、花のパフォーマンス、ティーパーティーでフリーディスカッションなどが行われ、高木教授も講演しました。

今回の作品は、11月16日(日)に愛知名港花

き地方卸売市場で開催された食肉・花き市場まつりや、11月21日(金)～11月24日(月)中部国際空港で開催されたあいち花フェスタ2014、3月26日(木)～3月29日(日)に愛知芸術文化センターで開催されたフラワー・ガーデニングショーでも展示されました。



熊崎翔太さん・榎田良希さん・南谷優輝さん (情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻2014年度卒業生)

【卒展訪問】JIDA中部ブロックデザイン賞を受賞!

JIDA(公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会)、中部ブロック・次世代事業委員会が毎年行っているデザイン系大学卒業制作訪問にて、各学校ごとに優秀な作品を2点選定し表彰する「2014年度【卒展訪問】JIDA中部ブロックデザイン賞で、本学からは最優秀賞に熊崎さんの「コーディネートの確認ができるハンガー」、優秀賞に榎田さん・南谷さんの「空間の用途に合わせて変化可能な家具」がそれぞれ選ばれました。

本学では、2月26日(木)～3月1日(日)にメディアパークでプロダクトデザイン専攻の卒業制作展が行われ、JIDAの審査員の方々は3月1日に来場。前日に学内選考で選定した10作品

の制作者たちが5分程度のプレゼンテーションを行い、審査されました。

熊崎さんの「コーディネートの確認ができるハンガー」は、衣服のコーディネートがしやすいトルソー型の立体ハンガーの提案。榎田さん・南谷さ

んの「空間の用途に合わせて変化可能な家具」は、製造ラインでは一般的に廃棄されてしまう杉の集成材を利用した子供向けのユニット型収納家具の提案。審査中、今後に向けてのアドバイスなどもいただき、充実した時間となりました。



情報学部 総合情報学科 経営情報専攻4年

社会調査インターカレッジ発表会で研究報告を行いました

10月25日(土)、名古屋市立大学で第8回社会調査インターカレッジ発表会が開催され、秋田倫太郎さん・伊藤雅哉さん・置田将大さん・佐藤祐哉さん・光吉樹さん(経営情報専攻4年)の5名が参加し、研究報告を行いました。この発表会は毎年10月に開催され、東海地区各大学の学生が社会調査実習などの成果を発表しています。本学経営情報専攻の授業「総合情

報プロジェクト演習」で社会調査を行っており、その一環で参加しました。

学生たちは、「地域活性化に果たす道の駅の役割」をテーマに、道の駅へ行ったインタビュー調査の方法や内容、分析結果について他大学の学生たちを前に発表しました。



澤岡昭学長

TBS『ひるおび!』に生出演し、はやぶさ2打ち上げについて解説しました

はやぶさ2が打ち上げられた昨年12月3日(水)、TBS『ひるおび!』(毎週月～金、11:00～放送)に澤岡昭学長が生出演し、はやぶさ2打ち上げについて解説しました。

番組では、はやぶさ2打ち上げの瞬間を生中継。午後1時22分4秒の打ち上げの瞬間まで出演者の方々と見守りました。番組では、打ち上げまでに二度あった打ち上げ延期の理由や打ち上げ場所の天候についてなどが説明がされたあと、2010年に地球へ帰還した初代はやぶさと

今回のはやぶさ2の違いをエンジンやアンテナ、小惑星の物質採取方法などの面から澤岡学長らが解説しました。その他にも出演者から次々に出される質問に対して、分かりやすく解説がなされました。

はやぶさ2は、2018年夏に小惑星に到着予定、2020年末に地球へ帰還する予定です。



篠原主勲准教授(工学部 総合機械工学科 ロボティクス専攻)

缶サットチャレンジ岐阜2014で講演しました

11月15日(土)、かかみがはら航空宇宙科学博物館で岐阜県高等学校教育研究会主催「缶サットチャレンジ岐阜2014」が開催され、篠原主勲准教授が「スーパーコンピュータによる宇宙機器開発」と題して参加した高校生約80人を前に、特別講演を行いました。

この大会は、高等学校の職員・生徒が、缶サットの製作基礎から降下実験やプレゼンテーションを通して、コンピュータによる制御・通信技術に関する基本的な知識・技術を習得するとともに自然

科学のデータ収集、超小型衛星に関する研究を進め、高校・大学間の交流を深めることを目的として開催されています。

篠原准教授は、日頃見聞きすることのできないJAXAの活動なども織り交ぜながら、無限の宇宙空間の広さを紹介するとともに、ロケットを打ち上げることの困難さや、打ち上げ後の宇宙空間でのトラブルを回避するために必要不可欠なスーパーコンピュータによるモノの評価の重要性を解説しました。



武藤隆教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

アートミュージアムラボで講演しました

1月28日(水)～1月30日(金)、愛知芸術文化センターで、一般財団法人地域創造主催 平成26年度アートミュージアムラボが開催され、武藤教授が講演しました。

アートミュージアムラボとは、公立美術館等の職員を対象とした研修プログラムであり、少人数のゼミ形式によるセミナー、グループ討論、ワークショップや事業体験プログラムなどを通して、美術を通じた地域における創造的な芸術活動の環境づくりに取り組む人材の育

成と相互交流の促進を目的として開催されています。

今年度のアートミュージアムラボのテーマは、「芸術祭と公立美術館の曖昧な関係」。近年日本各地で開催されるようになってきているビエンナーレやトリエンナーレの名を都市名に付けて、街づくりや街おこしを主目的とする行政主体の芸術祭と、その会場としての参加を求められることもある公立美術館での活動を、どう両立させていけるのかを考える機会となりました。

武藤教授は、「長者町とあいちトリエンナーレ」をテーマに、講演しました。



田中秀和教授(情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

名古屋工業大学の技術者教育プログラムの評価委員を務めました

1月21日(水)、名古屋工業大学の技術者教育プログラムの評価委員会が開催され、田中教授が外部評価委員として出席しました。

これは、名古屋工業大学工学部エンジニアリング系学士課程の教育プログラムである都市社会工学科環境都市系プログラムを外部

評価委員としてつぶさに評価するというもの。日本技術者教育認定機構の行っている審査に準じて、自己点検書等とホームページの教育プログラム関連事項を事前に閲覧し、評価委員会当日には試験答案や卒論などの実地資料の閲覧、意見の交換を行うとともに、委員

会終了後には評価報告書も提出しました。

田中教授は、平成20年にも岐阜工業高等専門学校の外部評価委員として同様の委員会に参加したことがあり、外部評価としては今回で2回目となりました。

佐藤達生教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

シンポジウム『中世における「建築」、日本とヨーロッパ』で講演しました

11月15日(土)、16日(日)、アンスティチュ・フランセ関西-京都で京都工芸繊維大学、パリ＝ソルボンヌ大学美術史・考古学 UFR 主催 シンポジウム『中世における「建築」、日本とヨーロッパ』が開催され、佐藤教授が講演しました。

シンポジウムでは、日本側8名、フランス側9名のそれぞれ中世建築(日本およびヨーロッ

パ)の専門家による講演と討論が日本語とフランス語の逐次通訳にて行われました。日本の研究者とフランスの研究者から見た、日本の中世建築と西洋の中世建築、その認識の共通性と異質性の理解を深めることを通じて、建築の「中世」の輪郭を明らかにしていきました。その中で佐藤教授は、「ゴシック建築線条化の主要過程」と題して講演を行いました。



大石弥幸教授(情報学部 情報システム学科 コンピュータサイエンス専攻)

日経ソフトウェアで著作本が紹介されました

進化し続けるソフトウェア開発やプログラミング技術について紹介している雑誌「日経ソフトウェア2月号」(日経BP社/2014年12月24日発行)で、大石弥幸教授著「例題で学ぶはじめてのC言語」が紹介されました。

2月号の特集“定番・最新の本で実践 プログラミング入門法”の中で、C言語の入門書として紹介されました。13章「よく使うアルゴリズム」、14章「C++への第一歩」は、他の

入門書にはあまり見られない面白い章であること、付録は問題の解答や主な標準関数、演算子などの優先順位、文字コード表、C言語に関する英単語から成り、よくできていることなどが紹介されました。

『例題で学ぶはじめてのC言語(改訂版)』
ムイスリ出版
B5判/250ページ/2,268円
ISBN 978-4-89641-217-8



山田靖教授(工学部 電気電子工学科)

電子デバイス実装研究委員会で講演しました

12月2日(火)、自動車会館(東京都千代田区)で第8回電子デバイス実装研究委員会(一般社団法人 スマートプロセス学会 エレクトロニクス生産科学部会主催)が開催され、山田靖教授が講演しました。この委員会は、高密度実

装技術、環境調和型実装、信頼性評価技術、分析・解析技術などの電子デバイス実装に関する研究情報交流の場として設けられており、年に4回開催されています。

山田教授は、「次世代パワー半導体用接合

技術」と題して講演を行い、自動車の電動化、次世代パワー半導体、パワー半導体用接合技術の技術動向などについて解説しました。

JISSOスクール 先進パワエレ実装コースで講演しました

12月2日(火)～4日(木)、横浜国立大学機器分析評価センターでJISSOスクール 先進パワエレ実装コースが開催され、山田靖教授が講演しました。

このJISSOスクールは、よこはま高度実装技術

コンソーシアム(YJC)の主催で開催されています。先進パワエレ実装コースは、電気自動車への応用で最近特に注目を浴びているSiC等の半導体を使ったインバーター装置のパワーモジュールの実装技術に特化した学びのコースです。

山田教授は3日(水)に「SiC実装の材料 接合材」と題して講演。SiCチップの接合材は従来のはんだが使えず、現在Agナノ材が唯一の解となっている状況について、具備条件と今後の見通しを解説しました。

上岡和弘教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

販路拡大セミナーで講師を担当しました

1月22日(木)、国際デザインセンターで名古屋市の緊急雇用創出事業「名古屋地域のクリエイティブ産業振興事業」の一つである販路拡大セミナーが開催され、上岡教授が講師を担当しました。

この事業はスキルアップと異業種交流を目的

としており、今回上岡教授が担当した講座は、経営者・営業担当者・広告担当者などを対象としたプロモーション講座。販路拡大のために効果的に「伝える」手段や手法を学ぶプログラムが行われ、上岡教授は「販路拡大のプロモーションチャンス」と題して講演を行いました。



小島一宏准教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

高畑勲監督のトークショーで聞き手を務めました

11月23日(日)、東京都三鷹市で開催された「第5回三鷹コミュニティシネマ映画祭」で、50年以上にわたり日本アニメーション界で活躍している高畑勲監督のトークショーが開催され、聞き手を東海ラジオのパーソナリティでもある小島一宏准教授が務めました。

この映画祭は、11月22日(土)~24日(月・祝)までの3日間、異なる企画で上映が行わ

れており、この日は高畑勲監督特集と題して代表作の一つである『火垂るの墓』や最新作『かぐや姫の物語』などが上映されました。トークショーでは、過去にこの映画祭で上映された作品のポスターを見ながらトークが始まり、高畑監督が大きな影響を受けた映画や学生時代の話、実写とアニメーションそれぞれの監督観などについて話がなされました。ま

た、自らの作品についての話から、日本と西洋の絵の表現に見る特性、高畑監督の考える日本人の国民性にまで話が及びました。最後の来場者からの質疑応答の時間には、次回作の構想やいい監督になるために必要なことや素質などについて尋ねられ、来場者に向けてメッセージ・エールを贈りました。

横井健二教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

東山植物園もみじ狩り写真コンクールで2年連続の受賞

東山植物園もみじ狩り(2014年11月19日~12月8日)の行事の一環として「東山植物園写真コンクール」が行われ、横井教授が応募した奥三河の伝統芸能「小林花祭」の実演風景を遠景から撮影した作品が東山公園協会賞を受賞しました。

写真撮影スキルはプロダクトデザインの分野とは少し違ってくるように感じますが、デザイン作品の撮影、そして景観デザインを考える上で重要な

ものであり、プロダクトデザイン専攻の学生に対しても、同じ情報デザイン学科のメディアデザイン専攻 杉本幸雄教授による特別講義を開講するほか、横井教授も写真撮影基礎講座を実施するなど、専攻として力を入れています。

そんな観点で、横井教授自身も写真撮影のスキルを向上させようとさまざまなコンクールへ応募しているとのことで、このコンクールへは昨年にも応募し2年連続の受賞となります。



岡田心准教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

デザインした商品ふたつが「OMOTENASHI Selection 2014」を受賞しました



日本独自の精神である「おもてなし」の心から生まれた魅力ある商品・サービスを全国から募集し、選定する OMOTENASHI Selection。岡田准教授がデザインしたふたつの商品が「OMOTENASHI Selection 2014」に選定されました。今年度は141の候補から47が受賞。

金賞商品に選定されたのは、エコ加湿器



「MAST」(有限会社大橋量器)。枡の名産地岐阜県大垣市の職人の知恵と技術から生まれた「MAST」。帆船のマストをモチーフとした熱源を

利用しない天然加湿器は、天然木の吸水性を利用した三連の帆からやさしく放出される潤いとヒノキの香りの癒しが、心と暮らしをやわらかに包み込みます。自然蒸発を利用して熱源を使用しない、実用性とインテリアとしてのデザイン性を兼ね備えたエコ加湿器です。

また受賞商品に選定されたのは、ポータブルかまど「コヘツイ」(蒼築舎株式会社)。

左官職人の技と想いが生み出した「現代版かまど」。薄れゆく火の文化を後世の暮らしに残していくため、その象徴であるかまどを、日本古来より伝わる左官の技術で再構築し、モダンなデザインで持ち運べるサイズに仕上げました。人が古来より知っている「みんなで火を囲む安らぎ」を現代に届けます。

2012年に「現代の名工」に選出された蒼築舎株式会社を営む左官職人の松木憲司さんとは産学連携プロジェクトを現在行っています。

詳細はこちらから：

<http://omotenashinippon.jp/selection>
(OMOTENASHI SELECTION_Web サイト)



X4デザイン専攻・リレー展 卒業制作展を開催しました

大同大学「X4デザイン専攻・リレー展」は、本学デザイン系の専攻から4専攻、建築専攻・インテリアデザイン専攻・メディアデザイン専攻・プロダクトデザイン専攻がそれぞれ専門分野の魅力を広く学外の人たちにも知ってもらいたいという思いからスタートした展覧会です。

それぞれの専攻がバトンを手渡していくリレーのように、名古屋市内の様々な場所で順次展覧会、発表会を行いました。

2月に栄ナディアパークで建築専攻・インテリアデザイン専攻の卒業研究選抜展、プロダクトデザイン専攻の卒業制作展を開催したほか、

千種文化小劇場でメディアデザイン専攻のサウンドアートコンサートを開催。また、3月にセントラルアートギャラリーでメディアデザイン専攻の卒業制作セレクト展を開催しました。



▲建築専攻、インテリアデザイン専攻



▲メディアデザイン専攻



▲プロダクトデザイン専攻

杉本幸雄研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻) & film研究会 大学プロモーションビデオ第2弾を制作中!

メディアデザイン専攻の映像研究室とクラブ団体の film 研究会の学生たちが、杉本幸雄教授サポートのもと、監督・助監督・カメラマン・照明等のスタッフを担当し、昨年に続き、本学のプロモーションビデオを制作しています。

20人を超える学生制作スタッフがエキストラの募集、施設借用、出演交渉から内容、セリフ、音、演出等まですべてを担当。およそ50人の学生エキストラ、また澤岡昭学長や教職員らが3月12日(木)・13日(金)・18日(水)の撮影でダンスに取り組みました。

このPVは5月31日(日)のオープンキャンパス全体会で初お披露目され、参加者にDVD配

付されるほか、ホームページでも公開します。どうぞお楽しみに!



☆第1弾大同大学PV：<http://www.daido-it.ac.jp/gallery/index.html>

クラブ活動報告会を開催しました

2月6日(金)、本学ゴビーホールでクラブ委員会主催 クラブ活動報告会を開催しました。

各クラブの代表者が、スライドを使って今年度の活動内容や会計報告、次年度の目標などを発表しました。大勢の前でプレゼンテーションをする良い機会となっただけでなく、発表内容に対

して学生部から質問や今後のアドバイスなどもあり、次年度に向けてのモチベーションアップにつながりました。

また発表を聞く学生たちにとっても、他のクラブの活動状況を知り、良い刺激となったようです。



新刊紹介

『14歳からのケンチク学』

共著：武藤隆教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

中学・高校で学ぶ18科目から「ケンチク学」をひもとく入門書で、建築はあらゆる学問に通じていること、また、そこに秘められた面白さを知る手掛かりを提供します。

武藤教授は、美術「つくること、みること、かんがえること」(p35-50)を寄稿しました。

編者：五十嵐太郎

四六・336頁

ISBN:978-4-395-32037-0

出版社：彰国社

定価本体 1,850円+税

2015年4月出版



クロスラーニング2014

建築専攻×インテリアデザイン専攻×メディアデザイン専攻×プロダクトデザイン専攻

職人の技「左官技術」との連携プロジェクト

企業と大学、学科・専攻(工学部建築学科建築専攻/工学部建築学科インテリアデザイン専攻/情報学部情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻)、また学年(3年生/2年生)がクロスして取り組む連携プロジェクト、それがクロスラーニング。

第1章は、板金加工メーカー「株式会社マウンテック(愛知県津島市)」とクロスし、従来にない構造・形状の蚊やりブタ「IRON Kayari(アイアン蚊やり)」を2年半かけて開発・製造し、販売しました。

そして今回第2章は、2012年に「現代の名工」に選出された「蒼築舎(三重県四日市市)」を営む左官職人の松木憲司さんとのクロス。日本一の左官技術を活用した新たな土文化の提案です。また今回から情報学部情報デザイン学科メディアデザイン専攻もクロスし加わりました。

火の文化から遠ざかりつつある現代。「かまど」により火に親しみながら、火の文化、食・住の文化を感じ、癒しとくつろぎを演出するツールとして提案するため、「かまど」のある生活の空間づくりからデザインし、その空間にあう、斬新かつ魅力的なかまど研究に取り組む。学内のみでは経験することのできないデザインの現場を、実践的に学ぶプロジェクトが2014年8月より始動しました。

3グループが集い、8-9月でアイデア出し、9月末には基本的な方向性の確認のための初期検討デザイン案プレゼン。10-12月でデザイン・アイデアをブラッシュアップ、12月末には中間プレゼンを行いました。

松木さんを交えたプレゼンでディスカッションを進めた結果、地方公共団体「三重県産業支援センター」ともクロスすることに。鳥羽港の北東

約2.5kmに位置する鳥羽市最大の島「答志島」で「かまど」を活用した地域ビジネスの提案に展開していきました。

2月6日(金)、三重県産業支援センター理事長と松木さんを迎えての2回目の追加中間プレゼン。理事長は学生たちの提案を聞き、現実性が高く面白いと大絶賛。「このレベルまできたら頭で考えるだけではなく現場を見て、現地の人と話すべき」と学生たち全員を答志島へ招いて出張プレゼンを提案され、さらなる展開へ。2月27日(金)いざ答志島へ出向きました。

今後は最終プレゼンを行い、評価の高い物を「蒼築舎かまどショールーム」さらには答志島にて空間、かまど共に実物制作されます。

産学官のクロス、実践教育が学生を育てる。その挑戦の場がここにあります。



中国・韓山師範学院の短期留学生を受け入れました



11月17日(月)～11月30日(日)、本学の学術交流協定締結校である中国・韓山師範学院から大学生18人(引率教員2人)が短期留学生として来学しました。そのうち10人がさくらサイエンスプラン(日本・アジア青少年サイエンス交流事業)の支援を受けて参加。今回参加した学生は理工系を専攻する学生を主としており、体験学修等をベースとした留学生向けの実習や学外での工場・施設見学を実施しました。

17日(月)のプログラム初日は、大学施設と名古屋市内の見学を行いました。夕方からはウェルカムパーティーを開催。本学学生も参加し学生同士の交流の場となりました。参加学生は初めてのことばかりで戸惑いながらも、熱心に説明を聞きメモを取るなど、少し緊張した面持ちでプログラムがスタートしました。

18日(火)には大江破碎工場で不燃ごみ・粗ごみを破碎し、資源・可燃物・不燃物に選別する過程の見学を行いました。中国では環境問題は重要な課題となっているため、ごみ処理に興味を示す学生が多く、プログラム終了後のアンケートでも好評でした。その後、澤岡昭学長による大同大学の歴史と概要、また日本の宇宙開発についての講演がありました。講演では質疑が活発に

行われ、熱心に学ぶ姿勢がとても印象的でした。

28日(金)に無事全プログラムが修了。理事長より修了書の授与が行われました。フェアウェルパーティーでは、参加学生が1人ひとりプログラムについて感想を述べました。多くの学生はプログラムの感想以外にも日本文化の魅力についても述べてくれました。学生同士も打ち解けた様子で大変和やかな雰囲気となりました。

参加学生はとても積極的に目的意識をもって参加しており、意義のある短期留学となりました。本学で学ぶ学生にとっても国際感覚を養う有意義な機会となり、よい刺激となりました。将来の工業の発展、さらには日中の友好関係に期待したいです。





ミラノ工科大学との連携ワークショップ 情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

ミラノ工科大学との国際連携ワークショップを行いました



このワークショップは、ミラノ工科大学デザイン学科と大同大学情報学部情報デザイン学科プロダクトデザイン専攻の国際連携ワークショップです。

テーマは日本の「俳句 (HAIKU)」。

俳句をデザインに導入することによって、独自のデザインコンセプトを生み出すことができると考えました。

はじめにミラノ工科大学が11月24日(月)から28日(金)までの5日間で、俳句からイメージした「FOOD SPACE DESIGN: 食の環境(インテリアデザイン空間)」を提案するワークショップを実施しました。俳句のシンプルな文章が、ミラノの学生の創造性によってインテリアデザインの提案に。そのFOOD SPACEに関する提案を、ミラノ工科大学で活動している井藤

隆志教授(プロダクトデザイン専攻)を始めとしたさまざまな違った分野によって構成された教員のメンバーによって評価され、最終的に4作品が残りました。

次に、12月19日(金)に4作品に選出されたミラノ工科大学のグループがスカイプを使って、

本学のプロダクトデザイン専攻の学生に対し英語でプレゼンテーションを行いました。本学学生も英語で質疑。お互い慣れない英語でもしっかりコミュニケーションできました。

そして、その提案された食環境で利用する「製品デザイン: FOOD PRODUCT DESIGN」の

提案を2月16日(月)から19日(金)の5日間、短期集中の日程で本学学生が取り組みました。プロダクトデザイン専攻の3年生7人、2年生9人、1年生5人の計21人が4チームに分かれ、学年混成チームを編成し課題に取り組みました。テーマの理解、コンセプト立案、デザイン発想、詳細デザインを行い、最終日にはプレゼンテーションを実施しました。また、毎日夕刻には井藤隆志教授とスカイプでやりとりしながら報告会・ディスカッションを行い、デザイン提案を磨いていきました。学生たちは、ミラノの学生たちが提案したレストランに設置するテーブルや食器を、これまでになかった視点から発想・具現化し、自分たちの作品をアピールしました。

今後は、4月にミラノで開催されるミラノ国際家具ショーと5月からミラノで開催されるEXPO 2015に向けたミラノ工科大学内の学内展示に今回のワークショップで制作した立体模型を展示するほか、本学でも展示を行う予定です。



クラブ所属学生対象 普通救命講習会を開催しました

2月5日(木)、本学A棟14階でクラブに所属している学生を対象とした普通救命講習会を開催しました。

消防局より講師をお招きして、応急処置の必要性や心肺蘇生法の流れなどについて説明を受けたあと、実践練習が行われました。説明では、映像を交えながら、どのような症状の時に119番通報が必要なのかや、救命の可能性と時間経過との関係性などについて、分かりやすく解説がなされました。実践では、助けの求め方や胸骨圧迫、人工呼吸の方法、AEDの使い方など、順を追って繰り返し練習を行いました。ケーススタディも組み込まれ、より実際に

近いかたちで練習をすることができました。

学生たちは、大きな声を出しながら真剣に取り組んでいました。本学にもAEDが6箇所設

置されています。いざという時に使用できるように、今日の講習会の内容を忘れないでもらいたいです。





大学創立50周年記念公開講座『宇宙塾』“宇宙はすぐそこに”全10回が終了しました



さまざまな可能性を秘めた宇宙を身近に感じ、すばらしい未来に思いをはせる、全10回のシリーズ講座「宇宙塾」。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)技術

参与として国際宇宙ステーションの応用利用計画を推進し、現在も研究総括を務める澤岡昭学長が塾長を務め、毎回宇宙について魅力を語ります。

4月から開講し、宇宙飛行士やスペースシャトル、アポロ計画、人工衛星などさまざまな内

容を、最新の宇宙に関する話題とともにお話してきましたが、2月18日(水)にMission10、「はやぶさと宇宙探査」をテーマに、最終講座が行われました。第1回目からお越しいただいている方も多く、またもっと早くにこの講座を知っていれば…とおっしゃりながらお越しいただいた10回目から参加の方もおり、最終回も50人近くの塾生が集まりました。

奇跡の生還を遂げて有名になった“はやぶさ”と、昨年12月に打ち上げられた“はやぶさ2”との違いや、はやぶさ2のエンジン、アンテナ、回収カプセルなどの仕組み、そしてJAXAの宇宙ヨット“イカロス”や火星有人飛行計画の各国の状況についてなどが解説されました。最後の質問タイムで

も、多くの質問が投げかけられるなど、塾生たちは最終回を名残惜しんでいるようでした。

大学創立50周年記念公開講座『宇宙塾』は、塾生として100名を超える皆さまにお申込みをいただき、無事最終回を終えることができました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



大同大学創立50周年・栄中日文化センター開講50周年 共同企画 特別講演会「宇宙はすぐそこに」を開催しました

4月3日(金)、中日パレス(名古屋市中区栄)で大同大学創立50周年・栄中日文化センター開講50周年共同企画 特別講演会「宇宙はすぐそこに」を開催。澤岡昭学長(JAXA研究総括)と向井千秋さん(宇宙飛行士、JAXA宇宙医学研究センター長)が講演しました。

300名の定員を超える申し込みがあり、当日は、会場を宇宙ファンとそこそご家族らが埋め尽くしました。

講演会は、東海ラジオのパーソナリティも務める小島一宏准教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)が司会を務め、最初

に澤岡学長より「宇宙ステーションは国際閉鎖空間」と題して、プログラム後半の向井さんの講演への導入となるお話がありました。

澤岡学長が向井さんと出会った時のエピソードや、今回の講義のメインテーマでもある「国際宇宙ステーション(ISS)」についてのお話を中心に、初めて宇宙について興味を持ったという方にもわかりやすいように写真や具体的なエピソードを交えて説明がありました。

澤岡学長による「導入編」のあと、向井さんが「宇宙医学は究極の予防医学」と題してさらに深く切り込んだお話をされました。医師から宇宙飛

行士になり宇宙飛行から学んだことや、1番おもしろかったこと、重力との再遭遇体験などを実際に宇宙に行った向井さんだからこそお話いただけるリアリティのある内容で、来場者の方々もお話に引き込まれていました。

最後には、澤岡学長と向井さんとの対談が行われ、2030年に火星への旅をできるようにするためには何が一番重要か、どのような問題があるのかなど、会場を巻き込みながらお話いただき、特別講演会は大盛況のうちに幕を閉じました。



新任教員紹介

工学部 機械工学科 宮本 潤示 講師

2015年4月1日付で工学部機械工学科に着任した宮本と申します。専門は機械材料、プラズマ工学で、プラズマを用いて金属の表面改質処理法の研究を行っております。また、昨年度よりプラズマによる物質の滅菌法についての研究も取り組み始めました。出身、育ちは共に愛知県でありますので、愛知県の大学生の教育に携わることができて本当に光栄です。最近の目標は、悩む年頃である学生の相談に乗りつつ、社会でリーダーとして活躍できる素晴らしい人材を育成することです。よろしく願います。



平成26年度 学位記授与式を挙りました

3月20日(金)、本学石井記念体育館で学位記授与式を挙りました。学部生725人、大学院生28人、委託生1人が卒業・修了。

澤岡昭学長は、「どんな時代になっても、自分を磨いていくことが何よりも大切です。どうぞ、自分を大切に、同時に家族を大切に、楽しい人生を送ってください。大同大学は永遠に君たちの

ふるさとです。健康に気を付け、困難を笑って乗り越え、元気で愉快的な人生を送られることを、心から願っています。」と告辞を述べました。

卒業生総代の村瀬由弥さん(工学部 都市環境デザイン学科)は、「大学生活の4年間という月日は自分自身を大きく成長させるかけがえのない日々となりました。これからの人生では、今ま

で以上に困難が待ち受けていると思いますが、大同大学の卒業生としての誇りを持ち、自分自身に挑戦する姿勢で一步一步前進していきたいと思っています。」と答えました。

また、学位記授与式終了後は名古屋観光ホテルで卒業パーティーを行いました。



写真提供：アルバム委員会

学長賞(学部)

学 科	氏 名	指導教員
機械工学科	沼田 祥旺	池田 洋一
機械工学科	間下 正崇	池田 洋一
総合機械工学科	竹下 真司	五十川幸宏
総合機械工学科	海野 元希	溝口 正信
電気電子工学科	宇佐美 瑛	武田 秀雄
電気電子工学科	鈴木 達也	橋本 雄一
建築学科	柴田 愛理	加藤 和雄
建築学科	栗林 朋代	宇野 享
都市環境デザイン学科	西島 大雅	鷺見 哲也
都市環境デザイン学科	萩本 暁樹	堀内 将人
情報システム学科	太田 大鷹	本田 隆司
情報システム学科	竹内 伸明	朝倉 宏一
情報デザイン学科	西澤 れい	棚村 壽三
情報デザイン学科	小関 在	光田 恵

学長賞(課外活動)

学 科	氏 名	クラブ顧問
総合機械工学科	山田 貴大	大嶋 和彦
情報デザイン学科	高島 沙希	齊藤慎太郎
情報デザイン学科	村上 あや	齊藤慎太郎

学長賞(大学院)

専 攻	氏 名	指導教員
機械工学専攻	鬼頭 謙輔	尾形 和哉
機械工学専攻	山本 佳祐	池田 洋一
電気・電子工学専攻	岩田 太陽	大澤 文明
電気・電子工学専攻	田代 将人	堀尾 吉巳
建築学専攻	西谷 千華	萩原 伸幸
情報学専攻	宇佐美孝侑	佐藤 秀樹
情報学専攻	酒井 翼	小高 直樹

三好賞

学 科	氏 名	指導教員
機械工学科	高田 秀明	町屋修太郎
総合機械工学科	神谷 崇仁	矢野 治久
電気電子工学科	青木 雅斗	橋本 雄一
建築学科	辻 数馬	加藤 和雄
都市環境デザイン学科	大崎 拓哉	嶋田 喜昭
情報システム学科	小嶋 勇城	上田 浩次
情報デザイン学科	鍋倉 康佑	杉本 幸雄

人 事

● 退 職

【大学】

<教育職員>(H27.3.31)

瀬川 重男 教養部 数学教室 教授
 小林 正典 工学部 総合機械工学科 教授
 野田 卓 工学部 機械工学科 特任教員
 西畑 賢司 工学部 総合機械工学科 特任教員
 山本 俊彦 工学部 建築学科 特任教員
 山内 五郎 情報学部 情報デザイン学科 特任教員

<事務職員>(H27.3.31)

松尾 恵子 大学事務部 キャリア支援室
 伊藤 恵子 大学事務部 学生室

● 採 用

【法人本部・大学】

<教育職員>(H27.4.1)

宮本 潤示 工学部 機械工学科 講師
 青山 正治 工学部 機械工学科 特任教員(任期:H27.4.1~H28.3.31)
 松浦 章裕 工学部 機械工学科 特任教員(任期:H27.4.1~H28.3.31)
 笠嶋 泰 工学部 建築学科 特任教員(任期:H27.4.1~H28.3.31)
 瀬川 重男 教養部 数学教室 特任教員(任期:H27.4.1~H28.3.31)

<事務職員>(H27.4.1)

平山 典子 企画調整部 入試・広報室
 大沢絵理佳 大学事務部 学生室

● 昇 任

【法人本部・大学】

<教育職員>(H27.4.1)

坪井 涼 工学部 機械工学科 准教授
 渡部 裕子 情報学部 情報デザイン学科 准教授

<事務職員>(H27.4.1)

伊藤 雅士 大学事務部 学生室長(課長待遇)
 信濃 和彦 総務部 人事室(主査待遇)

● 異 動

【法人本部・大学】

<事務職員>(H27.4.1)

上田 賢幸 総務部 総務室 主任部員
 安田 英基 大学事務部 教務室
 川角 匡史 大学事務部 学務室